

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	会津大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	アイツダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	課外活動コース2<インターンシップ3(海外 大連)>
	学部・研究科等名	コンピュータ理工学部
	担当教職員名・役職	光永祐司 准教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	1
	受入企業等名	大連東軟信息学院、アルパイン大連R&D
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	中国ICTビジネス事情、対日オフショア開発、日中合弁事業等を学び、カーナビゲーションシステムの製造における性能評価業務に従事する。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		1年次～4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		専門教育科目の専門科目・その他の科目における「課外活動コース」(卒業単位数として合計4単位まで修得可能)にて当該科目を設置している。本学が推進する3段階インターンシップ(海外、国内、地域)のうちの「海外インターンシップ」という位置づけになっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	日中を行き来している幹部クラスのエンジニアから中国の商文化、ビジネス事情、カーナビゲーションシステムの概要を学ぶ他、本学の教員からデータベースシステムを用いたシステム開発の基礎などを学ぶ。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修報告書の他、最終プレゼンテーション発表会を開催、派遣時の業務を振り返り、現場に求められる資質・能力を育成する。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	現地(アルパイン大連R&Dセンター)に担当教員が引率、数日間現場の就業体験の実施状況を確認、本人からも直接面談を通して学びの深化を確認する。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前・事後研修では課題の内容や授業時の応答や内容、現地実習期間中は毎日「日報」やモニタリングの状況を基礎資料として、到達度を観点別に評価している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間14日間(うちインターンシップ実施期間5日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間14日間(うちインターンシップ実施期間5日)	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業がCSR(企業の社会的責任)の一環で締結した協定「大連-福島人材育成モデル」に基づいて実施
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://web-ext.u-aizu.ac.jp/official/curriculum/syllabus/2018_1_J_018.html#OT10
問い合わせ先	大学等名	会津大学
	担当部署名	スーパーグローバル大学推進室
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	光永祐司
	電話番号	0242-37-2701
	メールアドレス	sgu-adm@u-aizu.ac.jp